



竹田の夏越祭

見に来て

体制、内容見直し将来へ

【竹田】竹田市の竹田夏越祭が19、20の両日、城下町などである。100年以上にわたって続く歴史ある行事をこれからも続けるため、今夏から体制や内容を変更。新たに発足した竹田町祭り組合は「楽しい祭りにして地域の人を巻き込み、将来へとつなげていきたい」と意気込んでいる。



新たな体制、内容で開催する竹田夏越祭の実行委員会の児玉誠三さん（左）ら＝竹田市竹田町

夏越祭は城原八幡社（市内米納）の神様を1年に1度、城下町の西宮神社、岡神社、神明社の3社に迎える行事。例年、同八幡社からみこし3基が下り、神事を経て日中に城下町を巡行

する。「チョーサジャ」のかけ声で子どもみこしも練り歩く。

3社それぞれに祭り組合があり、これまで夏越祭は各組合が持ち回りで「請町」を務めてきた。だが近年は担い手の高齢化や人手不足などから、各種申請や関係機関との調整など負担が大きくなっていた。猛暑の影響もあり、昨夏は巡行を中止した。

こうした状況を受け、関係者で協議。三つの祭り組合を夏越祭に限り一本化することを決めた。今年5月に竹田町祭り組合を設立し、地域活性化に励む若者らを加えた祭り実行委員会を組織。若者らが祭りの歴史の掘り起こしやイベント

企画、みこしの担ぎ手確保などに奔走した。

今夏は初日に同八幡社での神事があり、午後4時半ごろ、みこし3基が市内竹田町の市城下町交流プラザに下る。熱中症防止で巡行は午後5時前に始める。

同プラザでは「子どもら幅広い人たちに祭りに親しんでもらおう」と同7時から、子どもダンスやバンド演奏、ビンゴゲームがある。最終日は午前8時半から同プラザで神事があり、みこしが同八幡社に上る。

実行委事務局長を務める児玉誠三さん（77）は「存続に向けた仕組みをつくることでできれば」と話した。問い合わせは実行委員会

（090・1083・2118）。

（指原祐輔）

「幅広い人たちが、楽しんで」



〔問①〕記事を読んで、次の文章の（ ）に当てはまる言葉を書いてください。

竹田夏越祭は()の神様を1年に1度、城下町にある()、
岡神社、神明社の3社に迎える行事で、()のかけ声で練り歩く子ども
みこしなども行われています。

〔問②〕今年5月に設立された「竹田町祭り組合」の取り組みについて、正しいものを選んでください。

㊦ これまで3つの祭り組合が別々に運営してきたが、担い手不足などによる負担を減らすため、今夏から「竹田町祭り組合」に一本化して夏越祭を開催することにした。

㊧ 地球温暖化による猛暑の影響を考慮し、今夏は巡行（みこしが町を練り歩くこと）をすべて中止し、交流プラザでのビンゴゲームやダンスのみを行うことにした。

㊨ 夏越祭は50年前から始まった祭りであり、今年は初日の午前中からみこしが城下町を一齐に巡行する。

答え

〔問③〕あなたの学校や地域で行われている行事（体育祭、文化祭、地域の祭りなど）を1つ選び、その行事の紹介と、あなたが思う「その行事を続けていくことの大切さ」を、それぞれ1文ずつ書きなさい。